

なんたん 社協だより

第 55号

2023. 1

すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり

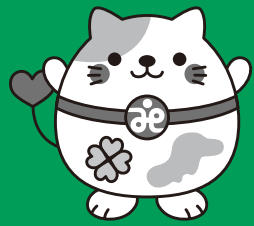


目次

小中学校での福祉教育の紹介	表紙～P3
美山包括ケア講演会／寄付預託	P.4
受賞報告	P.5
天引区の活性化と未来を考える会	
南丹市八木福祉ゾーン緑化清掃チーム	
北村火の用心グループ	
社会福祉協議会のご紹介（第4回 南丹地域包括支援センター）	P.6



南丹市社協マスコット
「ニャンたん」



福祉教育

南丹市社協では、第3期南丹市地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本理念「みんなでつくる、誰もが安心して、つながりながら住み続けられるまち」に基づいて、小中学校で行われる福祉教育の取り組みをサポートしています。同じテーマでも地域や環境などによってそれぞれ特色があります。今回は授業の一部を紹介します。

園部

園部小学校・園部第二小学校

①ユニバーサルデザイン^{※1}の講義と②車いす体験で福祉について勉強しました。

①シャンプーの容器や牛乳パックなどの身近なものを例に、どの部分が「誰もが使いやすいようにデザインされているか」を一緒に考えました。さらに、グループごとにオリジナルのピクトグラム^{※2}を作成し、お互いに発表しました。

②操作方法や注意点を学んだ後、実際に体験していきます。平坦な場所だけでなく、狭い道や段差での操作や介助する人からの声かけ方法を実践しました。また、車いすに座った状態で2種類の自動販売機（ユニバーサルデザインあり・なし）を見比べ、どちらが使いやすいかを体感しました。

子どもたちの感想

- ピクトグラムを、みんながわかるように描くのが難しかった。
- 車いすは、狭い所や段になっている所だとなかなか進めないことがわかった。
- 車いすで困っている人がいたら、助けたいと思った。

※1 ユニバーサルデザインとは、「年齢や能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人が使いやすいように、製品や建物・環境をデザインする」という考え方です。

※2 ピクトグラムとは、情報や指示、案内などを単純化された絵や図形で表したものです。



▲ピクトグラムを作成中！



日吉

殿田小学校

一学期

6月に「車いす体験」・「ユニバーサルデザインについて」・「視覚障がいについて」学びました。

二学期

11月に「認知症サポーター養成講座」で、認知症キャラバンメイトから認知症の症状や認知症の方と接するときのポイントなどを学びました。

子どもたちの感想

- 街中で車いすの方が困っておられたら、声をかけてみようと思った！
- 認知症の方が不安にならない声かけの仕方が必要だと感じた。



▲自動販売機の違いを観察



▲アイマスクをして折り紙に挑戦



▲認知症について学んでいる様子

八木

八木東小学校

「事前学習」「福祉体験」と2回に分け、福祉について学びました。

事前学習では、地域で困っている人の絵を見ながら「困っている人に、自分なら何ができるかな」など考え、発表して意見交換をしました。

福祉体験では、事前学習で学んだ「声かけの方法」「相手のことを考える」などを活かし、「車いす」を使った体験や「アイマスク」を付けて見えない体験をしました。

子どもたちの感想

- 勇気を出して声をかけてみる。
- 自分も困っている人がいたら、お手伝いをする。



▲絵を見て気がついたことを発表



▲自分たちができることを発表



▲車いす体験前の説明会

美山

美山中学校

PTA主催で認知症キャラバンメイト[※]から「認知症」の基礎知識や「ヤングケアラー」について学びました。グループディスカッションでは、認知症の方と接する時のポイントについて保護者も一緒にこんな時はどうしたらいいのか、自分ならどうして欲しいかななどを考えました。

※認知症キャラバンメイト：認知症サポーター養成講座を企画・開催し、講師を務める人

子どもたちの感想

職場体験で認知症の人と関わるところへ行きました。自分が将来そういう仕事に就いたら、今日のことを思い出して行動したいと思いました。



▲認知症サポーター養成講座

明日からできる
アクション！

美山包括ケア講演会

(主催 美山おたすけネット)

美山おたすけネット 美山で働く医療・福祉従事者が法人の枠を超えて、地域の課題解決に向けた取り組みを行っています。

10月15日（土）、美山町内の医療・福祉従事者に向けて、南丹市国民健康保険美山林健センター診療所の所長・西岡大輔医師による講演会が行われました。

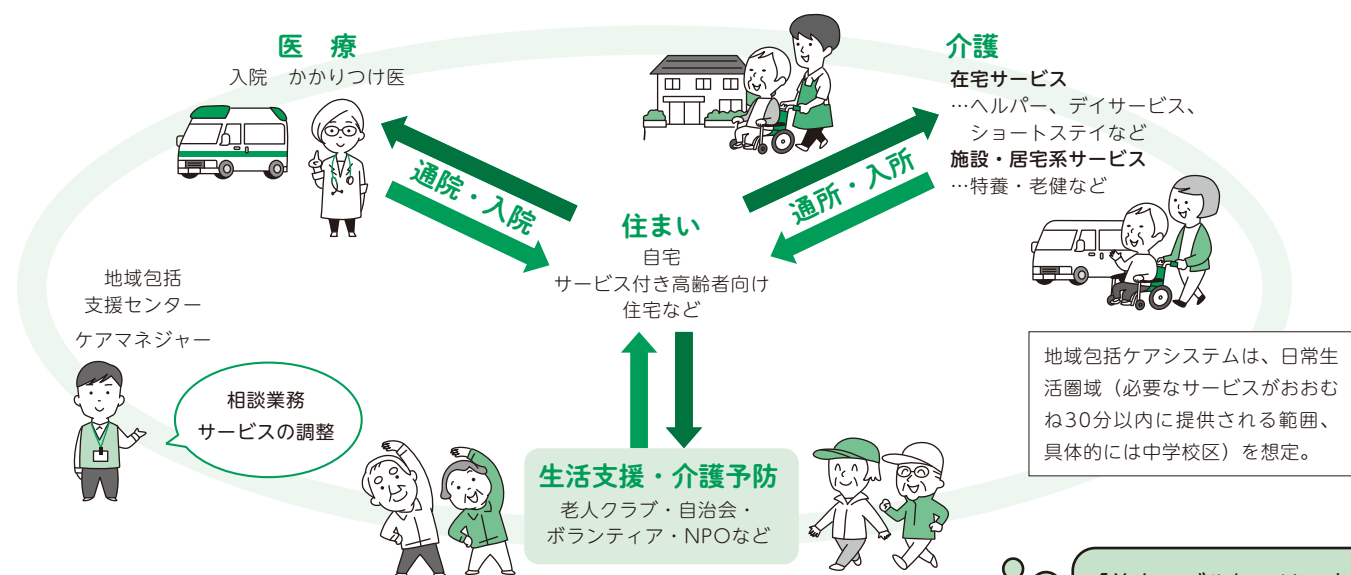
美山町は南丹市でも特に過疎高齢化が進み、様々な問題を抱えています。西岡医師は地域包括ケアシステムの「美山モデル」の研究をされており、講演会では「孤立」が個人の健康に及ぼす影響について説明をされ、「生活・社会環境」を整えること（＝まちづくり）の大切さを話されました。



▲講演する西岡大輔医師

地域包括ケアシステム

- 2025年を目途に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組み（＝地域包括ケアシステム）の構築を目指しています。
- 地域包括ケアシステムは、今後増加する認知症高齢者の生活を支えるためにも必要な仕組みです。



「美山モデル」では、高齢者だけでなく、障がい者や子ども移住者なども含めたネットワークを目指しています。

参加者の感想・意見

- いろんなところに参加して人の話を聞き、まちづくりに活かしたい。
- 子どもでも気軽に遊びに来れるような事業所作りができればいいな。
- それぞれの立場で仕事をする中、交流することの意義を感じる。

善意のご寄付ありがとうございました
令和4年9月1日～令和4年11月30日受付分

小桜町区	様	5,000円	福祉のために
手話パフォーマンスKid 虹音レイン	様	2,000円	福祉のために
弥生会	様	8,913円	福祉のために
南丹市商工会女性部	様	9,143円	福祉のために
山形 文彦	様	100,000円	福祉のために
三辰会	様	20,714円	福祉のために
野球サロン八木オールスターズ	様	27,261円	福祉のために
香川 和輝	様	100,000円	福祉のために
匿名寄付	3件	402,837円	福祉のために
匿名寄付	1件	5,000円	だんないの地域イベントのために
匿名寄付	1件	商品券5,000円	ひより舎のために

今西 猛	様	米多数	福祉のために
國府 博美	様	米多数	福祉のために
郵便局長夫人会やまゆりの会 南丹・京丹波部会	様	軍手・雑巾多数	福祉のために
マルホ発條工業株式会社	様	保存水・マジック ライス多数	福祉のために
匿名寄贈	1件	ホワイトボード	やぎ詩の郷のために
匿名寄贈	1件	米多数	福祉のために
匿名寄贈	1件	被服	福祉のために

みんなでつくった天引！

天引区の活性化と未来を考える会（園部）

会の結成は2012年。人口減少や少子高齢化が進み、住民のつながりが薄れていくことに危機感を抱かれたことがきっかけでした。そして10年経った今年、地道に積み重ねてこられた活動が高く評価され、「あしたのまち・くらしづくり活動賞[※]」で、内閣総理大臣賞を受賞されました！

そこで、小島喜久男様（会長、以下：小島）、原田久様（事務局長、以下：原田）、野村由紀様（ふれあい委員、以下：野村）にインタビューしました！

※独自の発想により全国各地で活発に展開されている地域づくり・くらしづくり・ひとづくりの活動に取り組んでいる地域活動団体等を表彰する。
主催は、公益財団法人あしたの日本を創る協会、NHK、読売新聞東京本社。



①受賞が決まった時のお気持ちを教えてください。

小島：区内だけでなく区外からも応援してもらったおかげで、ここまで頑張ってきたと思っています。

原田：普通のことを取り組んできたので、信じられへん、まさか、という気持ちでしたね。10年目という節目に激励とごほうびを頂いたと思いました。

②住民同士が助け合える地域にするために、大切なことは何ですか。

小島：みんながお互いにかまいあうことだと思います。もともと住んでいる者だけでなく、移住された方も大歓迎しています。

原田：みんなの持ち味を大事にして、強制をしない

で、やる気や自主性を尊重することですね。他にも、「天引むくむく市」や「便利屋さん」といった取り組みが、住民の安心感につながっていると思います。

③今後の目標を教えてください。

小島：この10年で風通しがよくなりました。今後はもっと住民の関係を深めて、楽しい村にしていきたいです。

原田：ビジネスの観点も取り入れて、天引で収入を得ながら生活できるように考えていきたいです。

野村：村の勢いがなくなってきているので、若い世代にもっと住んでもらえるように、天引の魅力を発信していきたいです。

取材をして…

園部町の天引区では、住民の方々のやる気や自主性を大切にされ、気持ちよく活動ができるように、様々な工夫をされているのを感じました。住みやすい地域

をつくるためには、そこに住む人々の力が発揮できる環境づくりが必要なですね。

南丹市社協は今後も、「誰もが安心して、つながりながら住み続けられるまち」づくりを応援していきます！

南丹市八木福祉ゾーン緑化清掃チーム （アイリス福祉会、シミズふないの里、南丹市社協）

八木町内で環境整備や緑化・清掃活動をさわやかボランティアロード事業として実施したことが評価され、道路功労者表彰(日本道路協会)を受賞されました。



北村火の用心グループ

かやぶきの里（美山町北）における28年間の火災予防の見回り活動が評価され、第71回京都府社会福祉大会社会福祉事業ボランティア功労者知事表彰を受賞されました。





ふだんのくらしをしあわせに 社会福祉協議会のご紹介

第4回 南丹地域包括支援センター

高齢者のみなさんが安心して暮らせるよう、お手伝いする相談窓口です。

9月のアルツハイマー月間では、全国で認知症にまつわるイベントが行われました。南丹市でも前回ご案内した「オレンジガーデニングプロジェクト」の他にも認知症のサポートに関する事業など実施しています。

① 見守り声かけ訓練 (日吉町生畑)

認知症の人が出かけたまま帰れず、行方不明になることを防ぐために、生畑地区では昨年に続き2回目の見守り声かけ訓練を実施しました。勉強会では不安にさせない声のかけ方を学び、実際に防災無線を使って行方不明を知らせる訓練をし



▲声のかけ方の実演



▲防災無線訓練の様子



▲声かけ訓練の実践

した。また、参加者が高齢者に扮して地域を歩き、実際に声をかけてもらう訓練も行いました。約30人の生畑地区住民が参加し、みんなで支え合い、住み慣れた地域で暮らし続けられるための取り組みができました。

② 本人ミーティング※(ハーバリウムづくり)

認知症であってもできることがたくさんあります。いろいろなことを楽しんで、前向きな生活になれるイベントを実施したいと思い、ハーバリウムづくりを行いました。ものの忘れの自覚や、認知症の診断がある方どうし、交流しながら思い思いにハーバリウムを作成しました。講師は、京都府立農芸高校の生徒さんでした。参加者からは「思ったよりきれいにできた」「こんな体験ができて良かった」との思いを聞くことができました。生徒さんからは「みんなの笑顔が見られて嬉しい」との感想があり、認知症を意識せず、年の差はあれど、楽しい時間を過ごしました。

※本人ミーティング 認知症の本人が集い、語りあい、活動する場



▲色とりどりの花を瓶につめる



▲生徒さんによる講義風景

南丹地域包括支援センターでは、楽しく前向きに暮らしながら、いざという心配な時には周囲と助け合える地域になればいいと考えています。今後もいろいろな取り組みを行っていきます。